



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2547号 2015.7.23 発行

### 社説：障害年金 一方的抑制は問題多い

京都新聞 2015年07月22日

不透明な年金行政への不満が高まっている。

国の障害年金を申請して不支給と判定されたり、更新時に支給を打ち切られたりした人の不服申し立てが大幅に増えている。国の審理件数は昨年度に約6500件に上り、10年前の3・5倍という。

社会保障費を抑制する国方針に沿う形で支給判定が厳しくなっている上、地域間のばらつきから不公平感が強いのが要因だ。打ち切りや支給減額となった場合でも理由はほとんど説明されず、泣き寝入りしている人も多い。不服申し立ては氷山の一角だろう。

障害のある人の暮らしを支える「命綱」とも言える年金であり、透明性のある仕組みの再構築と説明責任が問われる。

病気やけがで一定の障害のある人が受け取る障害年金の受給者は約200万人。支給申請は微増だが、給付などの決定に不服を申し立てる「審査請求」は2010年度以降に急増し、他の年金や健康保険を含む全件数の6～7割と不満が際立っている。

背景には給付の「出し渋り」がある。支給事務を担う日本年金機構のデータによると、支給申請で不支給となった割合は全国平均で10年度の10・9%から13年度は14・3%と3割増え、岡山など8県では更新時の打ち切りや減額が6割増えている。年金機構は「意図的ではない」とするが、抑制政策であるのは明らかだろう。

判定制度の矛盾も大きい。年金機構から委託を受けた各地の認定医が担い、書類審査だけで判定することがほとんどで、個人の考え方に左右されやすい。都道府県ごとの不支給率は最大6倍のばらつきがあり、公平性に疑問を抱くのは当然と言えよう。

何より年金機構がさまざまな面で説明責任を果たしていないのが問題だ。窓口では不支給や打ち切りの詳しい理由を示さず、不服申し立てを封じる向きさえある。その審理は担当者が少なく数カ月かかる事態を放置し、申し立てを認めるのは6%に抑えている。申請者の立場を顧みない無責任で官僚的な姿勢を改めねばなるまい。

監督する厚生労働省の責任も重い。地域差是正を掲げて判定基準や運営の見直しを検討しているが、さらに審査を厳格化する動きに障害者らは不安を強めている。

年金財政が厳しいとはいえ、憲法の生存権を保障する制度である。必要とする人を排除せぬよう、実情に応じて給付の客観性を高める改革が求められよう。

### 介護保険改正 資産自己申告に疑問 手続き煩雑、公平性に疑問

神戸新聞 2015年7月22日

預貯金の通帳のコピー提出を求める各市町からの通知が特別養護老人ホーム（特養）などの利用者に届き、兵庫県内の介護現場から疑問の声が上がっている。個人情報提出することへの抵抗感に加え、手続きの煩雑さや「公平性を保つことができるのか」といった懸念もある。

西宮市内の女性（73）は5月末、通帳コピーの提出などを求める通知を受け取った。

要介護5の夫（75）を自宅で介護するが、特養でのショートステイを月に8日利用。収入は年金だけで住民税非課税のため、食費と居住費（部屋代）の軽減措置を受けてきた。



通帳のコピー提出が必要になったことは通知が届いて初めて知ったといい、「突然、提出を求められたら、相手が行政でも抵抗がある。ケアマネジャーさえ知らなかった」と怒りは収まらない。

**長年介護する夫の手を握る女性。通帳のコピー提出に不安を漏らした＝西宮市内**

利用者の相談に応じるケアマネジャーらは金銭や通帳を扱えず、軽減措置の更新申請ができるのは本人や家族らに限られる。県介護支援専門員協会の垣内達也会長は「手続きが非常に煩雑だ。軽減が受けられるのにもかかわらず、申請を諦めてしまう人もいるのでは」と話す。

さらに、ある介護保険施設の関係者は「最も額の少ない通帳を選んでコピーし、提出している利用者もいるようだ」と明かし、「役所がどこまで細かく資産調査できるのか疑問」と指摘する。

これに対し、各市町は「利用者が資産を全て自己申告してくれると信用して、受理するしかない」とし、書類を細かく確認する方針だ。（阿部江利）

## 新貧困ビジネス？ 暴力団、ホームレスをドナーに 産経新聞 2015年7月21日

臓器売買に絡み、またも暴力団幹部が逮捕された。今回、暴力団幹部が臓器を買い取るために臓器提供者（ドナー）の標的としたのは、ホームレスの男。警察当局は、生活保護費の詐取など“貧困ビジネス”にたけた暴力団が臓器売買にも触手を伸ばしたとみて警戒を強めている。

臓器移植法違反などの疑いで逮捕された為貝雄一容疑者は平成18年ごろから、ホームレスとして東京・JR池袋駅西口にある公園に寝泊まりしていた。

その近所にいた組幹部の吉田昭容疑者が現れたのは24年ごろ。将来、ドナー候補として目を付けられるともしらず、為貝容疑者は風呂に入れてもらったり、食事をおごってもらったりと、吉田容疑者にかわいがられた。捜査関係者によると、吉田容疑者は知人の男が腎臓を患っているのを知り、200万円の支払いを条件にドナーとして為貝容疑者を男に紹介し、養子縁組をさせた。

臓器売買が摘発されたのは今回で3例目だ。23年には臓器売買を仲介したとして、警視庁が暴力団幹部や医師を摘発。いずれの事件でもドナーと患者の関係を親族と装っていた。

日本移植学会の倫理指針で生体間臓器移植は原則、倫理委員会の審査が必要とされているが、親族間の場合は不要だ。

厚生労働省の担当者は「親族間の生体間臓器移植は一般医療に当たり、住民票などの書類さえ整えば、医師には確認のしようはない」と説明。今回は為貝容疑者が警視庁に事情を話したことで発覚したが、この担当者は「話さなければ、そのまま手術していた可能性はある」と指摘する。

日本臓器移植ネットワークによると、6月末現在で1万2496人が腎臓移植登録をしているが、ドナーは慢性的に不足。移植までの平均待機期間は14年半に及ぶ。今年1～6月に行われた腎臓移植は89件で、待機人数に遠く及ばない。

患者に残された選択肢は、海外移植か、ドナーを自ら確保しての生体間移植だ。臓器をカネで確保する事件は、こうしたドナー不足から生まれている。

捜査関係者は「今回の事件の組織的な背景は今のところみえない。ドナーを見つけるのはハードルが高く、臓器売買は“組織的なビジネス”としてはまだ成立していない」とし

ながらも、「既存の制度の隙をつくのが暴力団。警戒が必要だ」と指摘している。

### 人と未来“結ぶ”和綴じ 障害者ら製本、南相馬で自由帳展 福島民友 2015年7月22日 多彩なクリエイターたちがデザインした和綴じ自由帳を展示している会場



クリエイティブ・ディレクターの箭内道彦さん（郡山市出身）らクリエイターが表紙をデザインし、東北の施設で働く障害者が「和綴（わと）じ」で製本した自由帳を展示即売する「東北和綴じ自由帳展」が21日、南相馬市原町区同市立中央図書館で始まった。和綴じは、紙を糸でとじる日本の伝統的な製本方法。「東北から、人と未来を結ぶ」という願いを、和綴じの技法に込めたという。NPO法人さぼーとセンターぴあ、自立研修所

ビーンズ（ともに南相馬市）の主催、リクルートホールディングスの企画・制作。

デザインは、箭内さんのほか、アーティストの日比野克彦さん、イラストレーターの和田誠さんなど長年第一線で活躍するクリエイターから、新進気鋭の若手まで187人が担当。東日本大震災の津波で被災した日本製紙石巻工場（宮城県石巻市）で開発・生産した用紙を使い、本県と岩手、宮城両県の障害者福祉施設を利用している障害者が製本した。震災により東北の障害者施設は請け負う仕事が激減しており、和綴じによる製本を障害者の仕事につなげる狙いもある。

和綴じ自由帳展は昨年から東京都、宮城と岩手両県、北海道で巡回開催され、本県では南相馬市のみ。自由帳は1冊1000円（税込み）で販売し、収益金は被災3県の子どものために寄付する。会期は8月1日まで。時間は午前10時～午後4時。

同図書館は28日午前10時から和綴じ製本教室を開催する。小学生以上が対象で参加費300円。定員は20人。

### 【まぜこぜエクスプレス】やまなみ工房の魅力を発信 産経新聞 2015年7月22日 栃木県那須郡那珂川町の「もうひとつの美術館」（提供写真）



栃木県那珂川町の「もうひとつの美術館」で、「サマーフォーラム2015 DISTORTION 6」が9月6日まで開かれている。

知的障がい者とのコラボレーションを展開するクリエイティブ・ユニット「PR-y（プライ）」の笠谷圭見氏が監修。滋賀県にある福祉作業所「やまなみ工房」所属作家の絵画、陶器、刺繍（ししゅう）などのアート作品、それを基にデザインされたファッションアイテム、やまなみ工房所属の作家たちを撮影した写真集『DISTORTION』『DISTORTION 2』に収められた写真などを展示する。

### ボーダーレスなダンスイベント

イベント「チョイワルナイトvol. 6」のポスター（提供写真）

「ダンスと福祉をつなぐ」を合言葉に、障がいのある人も子供も安心して楽しめる飛びつきりハッピーなボーダーレスイベント「チョイワルナイトvol. 6」が8月22日に神奈川県川崎市のNOCTYホール（溝の口





マルイファミリー、11階)で開催される。

SOCIAL WORKERZやBreak Jamのダンスのほか、自閉症ラッパーGOMESSのライブ、DJタイムなど午後1時から4時まで盛りだくさん。当日・一般1500円で、障がいのある人・介助者・小学生は500円、幼児は無料。

### 発達障がいパートナーとの日常

「ボクの彼女は発達障害2—一緒に暮らして毎日ドタバタしてます!」(学研、1400円+税、提供写真)

『ボクの彼女は発達障害2—一緒に暮らして毎日ドタバタしてます!』(学研、1400円+税)は、聴覚障がいと発達障がいのカップルの日常を描いて話題となったヒット本の続編だ。

ついに同棲生活を始めた2人。立て続けにトラブルに見舞われるが、お互いに補い合いながら乗り越えていく。感覚の違い、スケジュール管理、引っ越し、就職活動などさまざまなエピソードから、明るく楽しく発達障がいを知ることができるので、支援に関わる人にもお薦めだ。(一般社団法人「Get in touch」編集部/SANKEI EXPRESS)



### ガチャポンでよさこいバッジを 高知市の施設が依頼で製作

高知新聞 2015年07月22日

2014年の大人気を受け、2015年もガチャポンで販売するよさこいチーム缶バッジ(高知市越前町2丁目)

ガチャポンでよさこいバッジいかが—。よさこい祭りの期間中、出場チームのロゴバッジが出てくるガチャポンが高知市の帯屋町などに設置される。2014年夏、踊り子やよさこいファンで行列ができたほどの人気企画。2015年も側面から祭りを盛り上げる。製作しているのは「こだかさ障害者支援センター」で、依頼すればバッジを作ってもらえる。



### からつ医療福祉センターで夏祭り



ダンスや抽選で交流 佐賀新聞 2015年07月22日

毎年恒例の夏祭りで、職員と一緒に出し物を披露する施設の利用者たち=唐津市双水の佐賀整肢学園からつ医療福祉センター 唐津市双水の佐賀整肢学園からつ医療福祉センター(原寛道センター長)で18日、恒例の夏祭りが開かれた。ダンスやお楽しみ抽選会などを通じ入所者と地域住民が交流した。

かき氷やたこ焼きなどを提供する露店のほか、入所者が就労支援の一環で作ったティッシュケースやキーホルダーなどを販売するコーナーもあり、大勢の人でにぎわった。ステージでは入所者と職員と一緒に踊る出し物などがあり、会場からは大きな歓声が起こっていた。

同センター久里双水園の岩瀬裕幸施設長(59)は「祭りを通じ、利用者が障害を持っていても頑張っている生活していることを理解してもらい、障害者への理解が進む機会になれば」と話していた。

「先生触らないでください」 教え子らへのセクハラ深刻 杉原里美

朝日新聞 2015年7月22日  
グループごとに、スクールセクハラの実例について意見交換をする教員や保護者ら＝17日、大阪市住吉区の我孫子中学校

学校の教職員による性的な嫌がらせ「スクールセクハラ」が深刻化している。わいせつな行為で懲戒処分や訓告を受けた公立学校の教職員は2013年度、初めて全国で200人を超えた。私立学校は含まれず、「氷山の一角」だ。

■「俺に見放されたら、お前は終わるぞ」

「そんなにベタベタ触らないでください！」

数年前、都内の高校に通っていた20代の女性は初めて、その男性教諭に強い口調で抗議した。この教諭は授業中、女性の肩をもんだり頭をなでたり、ほおや足を触ったりしてきた。

その様子は、他の生徒も目撃していたが、教諭は気にしていないように見えた。女性は「これってセクハラじゃないの？」と迷いながら、受験への影響も考え、耐えていたという。

だが、この日は我慢できなかった。教諭が女性の机に近づいてきて、制服のブラウスの中に手を入れ、背中を触ってきたのだ。女性が抗議すると、教諭はこう言った。「俺に見放されたら、お前は終わるぞ」

翌日から、学校に行けなくなった。眠れなくなり、食欲もなく下痢を繰り返した。嘔吐（おうと）が止まらないこともあった。心的外傷後ストレス障害（PTSD）と診断された。

教諭は退職したが、教え方は上手で、人気があったため、女性を責める同級生もいた。「なぜ私が責められるのかと思うと、むなしかった」と女性は言う。卒業後に1浪し、知人のいない遠方の大学に進学した。

両親の後押しで裁判に訴えた後も、苦痛は続いた。教諭は、女性が反抗的な性格だったと非難し、「スキンシップだった」

「親しみを込めた表現だった」などと主張。頭以外を触ったことは認めなかった。裁判所は、不快感を与える身体的な接触があったことを前提に和解を勧め、数十万円の支払いで和解した。

今は会社員として働く女性は「誰かが嫌だと言わないと、また同じことが起きると思った。友人を失ったのはつらかったけど、訴えたことで自信につながった」と話す。

性暴力に詳しい打越さく良弁護士は「セクハラを訴えると、被害者が人格攻撃され、品行方正な女性だったかどうかを問われる構図がある」と二次被害を指摘する。「周りの人が説得して、泣き寝入りしているケースも多い」という。

## 難聴、生後すぐ検査を 早期療育で言葉の発達に効果 合田 禄



朝日新聞 2015年7月22日  
生まれてすぐの赤ちゃんに対して難聴の疑いがないかを調べる「新生児聴覚スクリーニング検査」。難聴に早めに気付いて療育を受ければコミュニケーション能力が高まるとの報告がある。ただ、実施率には地域差があり、学会などは全ての赤ちゃんが検査を受けられるよう国に働きかける。

絵が描かれた紙を手に言語聴覚士が女兒（3）と男児（4）に「これは何？」と問いかける。2人は「スイカ」と元気よく答える。富山県高志通園センター（富山市）で実施されている難聴の子どもたちの療育だ。

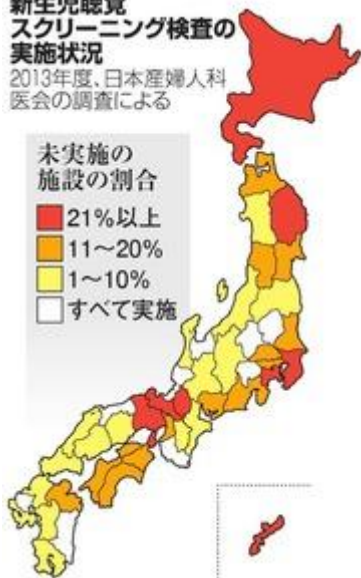
聴覚検査の様子。痛みはなく数分～10分程度で終わる＝国立成育医療研究センター提供



### 新生児聴覚スクリーニング検査の実施状況

2013年度、日本産婦人科医会の調査による

未実施の施設の割合  
■ 21%以上  
■ 11～20%  
■ 1～10%  
□ すべて実施



2人は誕生直後の聴覚検査（新生児聴覚スクリーニング）で精密検査が必要と判定された。耳鼻咽喉（いんこう）

科での詳しい検査で難聴と判明。男児の30代の母親は「生後3日で告知を受け、泣き崩れた」と振り返る。

難聴の場合、まず補聴器をつけて様子を見る。補聴器で十分に聞き取れないと判断されると音を電気信号に変換して聴神経に伝える装置「人工内耳」を検討する。2人は1～3歳のときに両耳に人工内耳を取り付ける手術を受けた。

同センターには0歳から通う。聞こえるのはもともと機械的に合成された音なので言葉として認識するには訓練が必要だ。療育では、遊びながら言葉を聴いて話すことを繰り返し、人との会話を実践していく。

2人の母親は「ここまでコミュニケーションをとれるようになった。不安もあるが、さらに伸ばしてあげられるようにサポートしたい」と口をそろえた。

生まれつき難聴の赤ちゃんは2千人に3人ほどの割合でいると言われる。ただ、4、5歳になって気付くこともある。難聴の原因は約半数が遺伝性。妊娠中に母親が風疹になった場合や原因がわからないこともある。

検査は生後2～4日に行い、専用の機器で耳に音を流し、脳波や返ってくる音を調べる。痛みはなく、数分～10分ほどで終わる。

2007～11年度に319人の難聴児を対象にした厚生労働省の戦略研究では、生後半年以内に療育を始めると、言葉を使うコミュニケーション能力の指標が高くなる確率が3倍以上になるという結果が出た。

## 介護サポートに商機 歩行訓練「ASIMO式」 ホンダ、病院向けにリース機器

朝日新聞 2015年7月22日

ホンダは21日、歩行を助ける訓練機器「歩行アシスト」のリースを、11月から病院やリハビリ施設向けに始めると発表した。ホンダが開発した二足歩行ロボット「ASIMO（アシモ）」の研究開発で得た歩行の技術を生かし、歩くのに介助が必要な高齢者やリハビリ患者らに向けて開発した。

訓練機器は、腰と両足に装着する。内蔵のセンサーが股関節の動きを検知し、足を前に出したり後ろに引いたりする動きをモーターで助けるしくみだ。重さは約2.7キロで、リチウムイオン電池で動く。

医師や理学療法士の指導を受けながらの利用が前提だ。月4万5千円で3年間のリース契約ができる。初年度は450台の契約

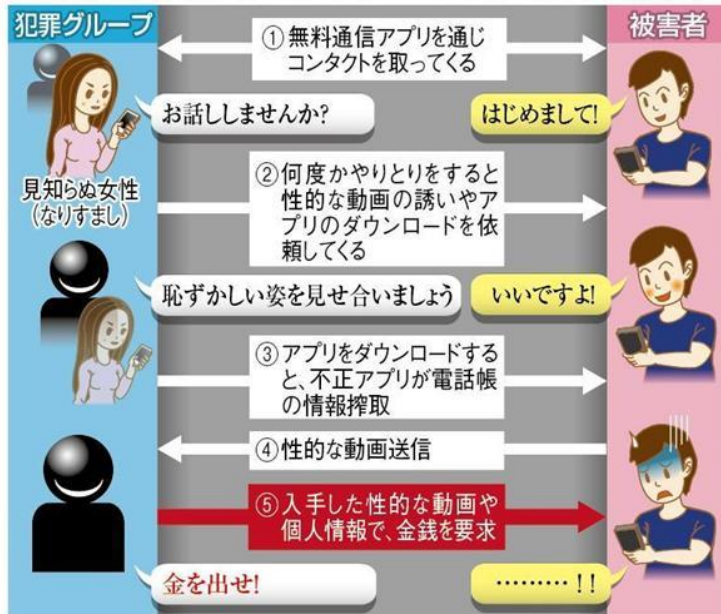




を目指す。(田中美保)

「恥ずかしい画像ばらまくぞ」 日本に上陸した性的脅迫「セクストーション」 アプリで甘い誘い、寂しい男性が餌食

### 国内に広がるセクストーション被害の流れ



産経新聞 2015年7月22日  
性的脅迫「セクストーション」被害の流れ。海外では数年前から米国などで確認されていたが、国内でも近年、被害相談が寄せられるように…。すでに逮捕者も出ている

スマートフォンの無料通信アプリで知り合った女性と裸の画像を交換した。やりとりを重ねるうちに電話帳などのデータを抜き取られ、女性の関係者から「恥ずかしい画像」をネタに現金を要求される。もともとは海外で確認された「セクストーション」(性的脅迫)といわれる犯罪被害が日本にも上陸し、徐々に広がりつつある。今年に入り、兵庫県警にも複数の男性から相談が寄せられて

いるが、男性は自ら性的な画像を送っているため被害を申告しづらく、表面化しにくいという。相手側に渡った画像やデータを取り返すことはほぼ不可能で、その代償は大きい。男性の心のすき間に入り込む悪質な犯罪の実態とは。

#### 抜き取られた電話帳データ

「無料通信アプリで知り合った相手から、スマホの個人情報抜き取られ、現金を払わなければ動画をばらまくと脅されている」

兵庫県警サイバー犯罪対策課によると、今年3月以降、県内の複数の男性から、このような相談が寄せられるようになった。

その手口はこうだ。

「お話しませんか」。ある日突然、男性のスマホに、無料通信アプリを使って見知らぬ女性の名前をかたる人物から連絡が来る。男性が応じると、たわいないやりとりが始まる。

次第に会話はエスカレートし、女性から「恥ずかしい姿を見せ合いましょ」と持ちかけられる。

さらに女性から「ビデオ通話ができるアプリ」をダウンロードするよう求められ、男性は自分の性的な動画を撮影し、このアプリを起動して動画を送信した。

すると、間もなく男性のスマホの画面に「金できれいに解決しよう」との一文とともに、男性が登録している電話帳のデータの写真が送られてくる。そして、見知らぬ男から「電話帳を抜き取った。知り合いに動画をばらまかれなければ金を払え」と脅迫の電話がかかるというもの。

「ビデオ通話ができるアプリ」として男性がダウンロードしたのは、実際は電話帳のデータを抜き取ることができる不正アプリ。男性は気付かぬ間に、不正アプリを通じて電話帳のデータを盗まれ、プライベートなやりとりを行った際の動画データをネタに脅されるというのだ。

捜査関係者は「相談しにくい被害だろうし、実際の被害者はもっと多いのではないか」

とみている。

### 海外で広く認知 日本でも逮捕者

被害者から性的な写真や動画を手に入れ、それをネタに脅迫して金銭を要求するセクストーションとは、「sex (性的な)」と「extortion (ゆすり)」を掛け合わせた造語だ。

「独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)」(東京)によると、こうした被害は、数年前から米国などで確認され始めた。2014 (平成26)年にはフィリピンで、主に国外在住の高齢男性をターゲットに犯行を繰り返していた58人が逮捕されるなどしており、海外ではすでに広く認知されている。

日本でも近年、IPAに被害相談が寄せられるようになり、セクストーションによる恐喝容疑での逮捕者も出ている。

千葉県警は26年4月、不正アプリで男性のスマホから個人情報を抜き取り、現金を脅し取ったとして恐喝容疑で男2人を逮捕した。

2人の逮捕容疑は25年12月、大阪府内の30代の男性に対し、無料通信アプリを通じて、スマホの個人情報を抜き取る不正アプリを送付。電話帳のデータを抜き取った後、女性を装ってわいせつな行為を見せ合うことを持ち掛けた上、動画を送信させて「知人にばらまかれなければ金を払え」と脅し、20万円を振り込ませたとしている。

被害者が自身の性的な動画を送りつけていた相手は、異性ではなかった可能性がある。恥ずかしくて相談できない

相手が本当に出会いを求める女性であるかどうか分からないのに、なぜこうした被害に遭うのか。

ITジャーナリストの三上洋さんは「実生活で異性との交流が少なく、出会いを求める男性が被害に遭いやすい。女性と知り合えたうれしさから、不用意なやりとりをしてしまう人が多い」と分析する。

三上さんは2年ほど前から、10人以上の男性から相談を受けている。中には、現金を要求されたものの、恥ずかしさから警察や消費者センターに相談できず、駆け込んでくる人もいる。

三上さんは「寂しい男性の心のすき間に入り込む悪質な犯罪。ただ、知らない人との無料通信アプリ上でのやりとりは詐欺の可能性が高く、疑うべきだ」と警告する。

データ取り返せない…「2次被害」

「セクストーションの怖さは、その場で現金を脅し取られずに乗り切ったとしても、盗まれたデータが犯人の手元に残ってしまうところだ」と捜査関係者は話す。自分の恥ずかしい画像だけでなく、電話帳に登録していた知人や取引先などのデータまでが犯人に渡ってしまうのだ。

また、実際に相手に会うことなく被害に遭うため、犯人側の顔も名前も声も、国籍さえも分からない。やりとりしていたのは、本当に女性かどうか不明だ。送られてきた相手の画像も本人のものではない可能性が高い。

捜査関係者は「この手の犯罪の場合、犯人側の情報が乏しく、取られたデータを取り返すことはほぼ不可能だ」と言い切る。その上で「自分のスマホにあるデータは自分だけのものではない。情報を漏洩 (ろうえい) する側になってしまう恐れもあることを自覚して、簡単に甘い誘いに乗らないでほしい」と呼びかけている。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

